

《2019年度総合消防訓練を実施しました》

10月31日、女川原子力発電所において、発電所員および構内協力企業社員約300名が参加し、「2019年度総合消防訓練」を実施しました。

当日は、発電所員が勤務する事務新館内での火災発生を想定し、自衛消防隊による初期消火活動や屋外避難に加え、避難器具(救助袋)を使用した避難訓練を行いました。

また、火災が発生した際の対応力向上に向け、消火器による消火訓練や発電所に配備している消防車をを用いた放水訓練などを実施しました。

当発電所では、万が一火災や災害が発生した場合にも、迅速かつ適切な対応により発電所の安全性を確保できるよう、今後もこうした消防訓練や各種防災訓練を定期的実施してまいります。



救助袋を使い3階から避難 消火器の取り扱いを学ぶ発電所員 迅速な動きで対応した放水訓練

今回の総合消防訓練により、火災発生時の避難経路や初動対応、消火方法について再確認することができました。

まずは火災の発生防止が一番ではありますが、万が一火災が発生した際に適切な対応を行うためには、日頃の訓練が大切です。

今後も、さまざまな事態を想定した訓練を重ねてまいります。



技術統括部 防災グループ
清塚 崇(埼玉県出身)

《女川1号機の廃止措置計画について紹介します》シリーズ①

女川1号機の廃止措置は、全体工程(34年)を4段階に区分して実施する計画としており、当社は、現在、廃止措置計画認可に関する原子力規制委員会の審査を受けています。

発電所だよりでは、女川1号機の廃止措置についてシリーズで紹介していきます。

今回は、廃止措置の主要な作業の一つ「燃料搬出」について取り上げます。

廃止措置の全体工程 34年

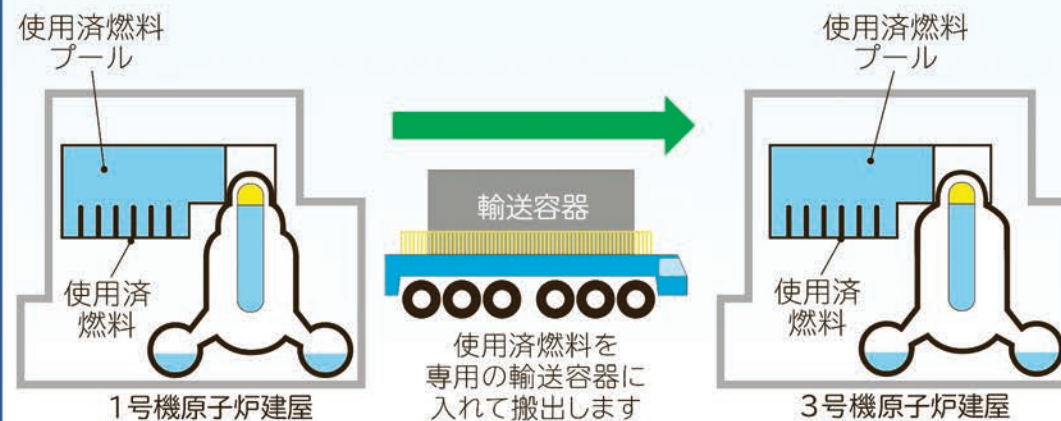
各段階の実施区分	第1段階 8年 (認可~2027年度)	第2段階 7年 (~2034年度)	第3段階 9年 (~2043年度)	第4段階 10年 (~2053年度)
	解体工事準備期間	原子炉領域周辺設備解体撤去期間	原子炉領域設備等解体撤去期間	建屋等解体撤去期間
主な作業	燃料搬出 汚染状況の調査			
		放射線管理区域内の設備(原子炉領域以外)の解体撤去		
	----- 原子炉領域の安全貯蔵 -----		原子炉領域の解体撤去	
				建屋等の解体撤去
	汚染の除去 放射線管理区域外の設備の解体撤去 放射性廃棄物の処理処分			

●解説 女川1号機の廃止に伴い、第1段階で必要となる作業の一つが燃料の搬出です。1号機の使用済燃料プールには821体の使用済燃料を貯蔵していますが、第2段階の開始前(2027年度)までに、3号機の使用済燃料プールに搬出し貯蔵します。

この821体に加え、既に2号機に移送済の95体、3号機に移送済の66体を廃止措置が終了する(2053年度)までに、燃料の再処理事業者へ譲り渡すこととしています。

また、未使用の燃料41体(1号機の使用済燃料プール:40体、1号機の新燃料貯蔵庫:1体)については、第2段階の開始前(2027年度)までに、燃料の加工事業者へ譲り渡すこととしています。

1号機の使用済燃料を3号機の使用済燃料プールへ搬出(イメージ)



1号機の使用済燃料および未使用燃料の貯蔵場所と数量

種類	貯蔵場所	数量
使用済燃料	1号機 使用済燃料プール	821体
	2号機 使用済燃料プール	95体
	3号機 使用済燃料プール	66体
未使用燃料	1号機 使用済燃料プール	40体
	1号機 新燃料貯蔵庫	1体

(2019年10月末現在)

《女川3号機の放射線モニタが復旧しました》

女川原子力発電所に設置している放射線モニタ(放射線を監視するための計測器)のうち、女川3号機原子炉建屋に設置している1台(当該モニタ)が故障したことから、別の計測方法で監視を継続していましたが、保安規定※に定める放射線モニタの必要数(発電所全体で114台)を満たしていないとして、8月21日、原子力規制委員会より保安規定違反(監視)の判定を受けました。

これを受け、当発電所において、**当該モニタの早期復旧に向けた対応を進めた結果、9月26日、復旧が完了し保安規定に定める必要数を満足する状態となりました。**

当発電所では、今後も、社内教育等を通じて保安規定の遵守を徹底していくとともに、発電所の安全確保に努めてまいります。

※ 保安規定は、当社が原子力発電所を安全に運転・管理するために遵守すべき事項を規定しているもので、保安規定違反は、原子力安全に及ぼす影響の大きい順に「違反1」「違反2」「違反3」「監視」の4段階に区分されている。

《「第8回東北電力杯女川・牡鹿親睦交流グラウンド・ゴルフ大会」が開催されました》

10月2日、「第8回東北電力杯女川・牡鹿親睦交流グラウンド・ゴルフ大会」(主催:女川グラウンド・ゴルフ協会、協賛:東北電力(株)女川原子力発電所)が、女川町総合運動場第二多目的運動場において開催されました。

当日は、秋晴れのもと、女川地区および牡鹿地区から約80名が参加し、日頃の練習の成果を十分に発揮しました。



参加者全員が笑顔で心地良い汗を流しました

《「第23回東北電力杯家庭バレーボール大会」が開催されました》

10月27日、「第23回東北電力杯家庭バレーボール大会」(主催:女川家庭バレーボール協会、協賛:東北電力(株)女川原子力発電所)が女川町総合体育館において開催されました。

当日は、全10チームによる熱戦が繰り広げられ、女川町の「Zero」が優勝し3連覇を達成しました。



優勝を目指しチーム一丸となってプレーする選手たち

大会結果

優勝 Zero(女川町)
準優勝 VIBES(石巻市)
第三位 ピーナッツフレンズ(女川町)

《女川原子力PRセンター「収穫祭2019」を開催しました》

10月20日、女川原子力PRセンターにおいて、「収穫祭2019」を開催しました。収穫祭は、地域の皆さまへ日頃の感謝と御礼の気持ちを込め、1993年から開催しています。

当日は、500名を超えるたくさんの皆さまにご来場いただき、敷地内の果樹園「スイートガーデン」で育った「りんご・大根・さつまいも」の収穫体験のほか、石巻ジュニアジャズオーケストラや石巻好文館高校チアリーディング部をはじめとした地域で活動する団体のステージショーなどをお楽しみいただきました。



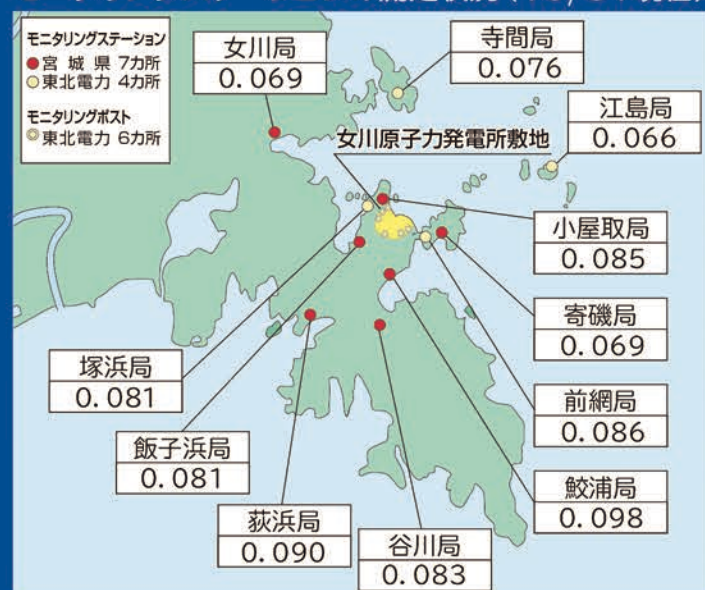
りんごや大根の収穫体験を楽しむ子どもたち

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.048マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

モニタリングステーションの測定状況(10/31現在)



単位:マイクロシーベルト/時

(参考)モニタリングポストの最小値と最大値※3

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	最小値	最大値
2011年3月11日	0.027	0.064
〈地震発生後最大値〉		
2011年3月13日	1.8	21※4
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉		
2012年4月1日	0.063	0.098
2013年4月1日	0.055	0.076
2018年4月1日	0.037	0.048
2019年4月1日	0.036	0.051
2019年10月1日	0.036	0.049
2019年10月31日	0.036	0.048

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。